

○第1回(令和5年12月17日)への質問

問1

- (1) なぜ3病院に精神医療センターを加え、遠距離に移設する必要があったのか。
- (2) 知事の姿勢に異を唱える市民の声を無視して、医療の現場をどう捉えているのか。

答1

- (1) 配布資料の24～25ページにあるとおり、「がんを総合的に診療できる機能を有する病院」の実現に向けて、3病院による検討を行う中で、がん医療や周産期医療、救急医療、精神科医療などの政策医療の課題についても話し合いが行われ、これらの解決策の一つとして、令和3年9月に2つの枠組みでの協議が開始されたものです。
- (2) 患者や家族などの当事者の方々からは、賛成・反対それぞれの御意見をいただいておりますので、引き続き、様々な不安や懸念を払拭できるよう努めてまいります。

問2 世の中は一極集中型から分散型システムに移行しているが、県の提案は従来の一極集中型の考え方を引き継いだものである。既存システムの活用と将来システムを見据えれば、ネットワーク化を考慮した分散型システムにするべき。

答2 医療全体の議論としては、地域移行や連携が方針ですが、急性期を担う病院については、集約化・拠点化を図ることで医療の質の向上を図る必要があり、地域バランスのとれた病院の再編・統合の方向で現在検討を進めております。

問3 これからの八木山地区は、大きな病院よりも、クリニックや老人保健施設、老人福祉施設がある方が最適と考える。移転後の跡地利用について、県から日本赤十字社側に配慮を求めることは可能か。

答3 頂いた意見を日本赤十字社にお伝えいたします。

○第2回(令和5年12月23日)への質問

問4

- (1) 北と南も医療機関を充実させなければいけないのはわかるが、仙台市も十分ではない。東北労災病院の移転は再検討してほしい。
- (2) コンパクトに人口を集中させて、福祉施設や医療施設を集約する方が少子高齢化には適するのではないか。これらの施設を散在させて、人材不足にならないのか。

答4

- (1) 仙台市内には医療機関が集中するとともに、仙台医療圏全体で見ても、急性期病床が過剰な状況であり、その稼働率も近年減少傾向にあります。今回の病院再編により、拠点となる病院を分散・広域化することとなり、より地域バランスの取れた病院の適正配置が図られるとともに、持続的な医療提供体制が実現できるものと考えております。
- (2) 仙台医療圏全体でのバランスのとれた拠点病院の配置が医療の質の向上に必要と考えています。なお、再編対象の各病院は、集約化・ダウンサイジングを予定しているため、今回の病院再編により、人材不足が生じることは想定しておりません。

問5 病院が移転すれば、現在の地域住民は大きな不利益を被る。富谷のサービスが悪いのならば、新しい病院を作るか、現在の病院を充実させて対処するべきである。

答5 仙台医療圏においては、将来にわたって急性期病床が過剰な状況が想定されており、また、医療従事者の確保の観点も踏まえ、新たに急性期病院を設置することは想定できません。

問6

- (1) 説明会をしたという口実づくりのための説明会にしか思えなかった。そもそも説明会は構想が練りあがる前にすべき。
- (2) 富谷市は公立黒川病院など直近にある病院を利用するか、自分で市立病院を作るべき。台原から労災病院を略奪しないほしい。

答6

- (1) 病院再編の必要性とともに、一定の方向性について説明しながら、意見交換を行ってまいりたいと考えております。
- (2) 仙台医療圏においては、将来にわたって急性期病床が過剰な状況が想定されており、また、医療従事者の確保の観点も踏まえ、新たに急性期病院を設置することは想定できません。

また、地域包括ケア等に積極的に取り組む公立黒川病院については、その強みを生かしながら、役割を果たしてもらうことで、他の医療機関との機能分担・連携を通じて急性期から在宅まで切れ目のない地域の医療提供体制を目指していくことについて、地域の医療関係者からも期待する声をいただいております。

問7

- (1) なぜ東北労災病院と仙台赤十字病院だけが再編対象なのか。病床稼働率の低さや医業利益が赤字と言われても、他の病院との比較データがなく、信憑性に欠ける。
- (2) 精神医療センターを建替える適地は、本当に名取市にないのか。

- (3) 有識者会議のメンバーを教えてください。また、会議では精神医療センターの移転に反対の声はなかったのか。
- (4) 移転先の名取市と富谷市は本当に適地なのか。ゼネコンとの癒着などの裏はないのか。
- (5) 知事は「選挙公約だから何としてもやる」と言うが、知事選はワンイシューではない。冷静な話し合いを持って、納得のいく説明をしてほしい。

答7

- (1) 県には民間の病院を移転等させる権限はありませんが、仙台医療圏の課題を踏まえて、県が病院再編の方向性を仙台赤十字病院及び東北労災病院の運営主体に示し、それぞれの判断で、検討・協議に参加いただいているものです。協議参加の判断にあたっては、地域医療への貢献のほか、医療需要の見通しなど病院運営についての持続可能性も含め検討しているものと考えております。
- (2) 精神医療センターの現地建替えについては、既存の建物の取り壊しと新築工事を並行して行うため、工事中の療養環境の悪化や24時間救急体制への影響、工期の長期化などの懸念から、想定しておりません。
また、名取市内への移転については、10年以上にわたって検討してまいりましたが、地権者の同意や、文化財調査等の行政手続き、土地の造成工事などの点において条件に合う土地が見つからず、建替えの実現に至っておりません。
- (3) 県立精神医療センターのあり方検討会議の構成員は下記のとおりです。
なお、当該会議については、移転を前提とした会議ではなく、県内唯一の公立精神科病院としての役割等を検討するものでした。
- (4) 名取市及び富谷市は、それぞれ移転先として適地であると考えております。
- (5) 県民に対して、将来にわたって持続可能な医療提供体制を確保することは県の責務と考えており、病院再編の効果を最大化できるよう、引き続き様々な御意見を伺いながら、丁寧に議論を進めてまいります。

【参考】県立精神医療センターのあり方検討会議構成員（所属・職名は当時のもの）

所属	職名	氏名（敬称略）
東北大学大学院医学系研究科	教授	富田 博秋
宮城県精神科病院協会	会長	岩館 敏晴
国立病院機構仙台医療センター	総合精神神経科部長	岡崎 伸郎
仙台市立病院	精神科部長	佐藤 博俊
宮城県精神神経科診療所協会	会長	山崎 英樹

問8

- (1) 資料P41、令和5年度のできるだけ早い時期の基本合意を目指すところがあるが、これでは出来レースであり、質疑応答の意味がなく、理不尽ではないか。
- (2) 急性期医療に課題があるようだが、必要な地域に新設等（連携を含め）を検討するのはどうか。

- (3) 医師、看護師等の医療関係者の不足しているのであれば、増やす方向で検討すればよいのではないか。
- (4) 精神医療センターの移転について、老朽化を挙げているが、現在の場所または近隣に建て替えをするなどの検討が必要ではないか。
- (5) 精神医療に関して、医療関係者、当事者、保健福祉担当者、ご家族、弁護士等関係者の説明会があり、移転となった場合の移動手段など、現在よりもストレスがかかり症状の悪化が考えられ、問題となっている。地域住民（当事者等）や医療関係者も含め、その関係者が主となって話し合うべきではないか。
- (6) 精神医療センターの移転による代替案が示されていないのはなぜか。具体的な案を示していただきたい。
- (7) 資料P 25、関係者と協議とあるが、当事者（患者）及び医療関係者等が参加しておらず、生の声を聴かないのはなぜか。
- (8) 仙台だけではなく、富谷や名取の患者（家族も含む）、医療関係者、関係機関の代表等で、白紙の状態で議論を進めるのはどうか。
- (9) 私たちの人命と人権及び日常生活において大問題であるため、ぜひとも最適な方策を検討していただきたいと思うがいかがか。

答 8

- (1) 基本合意をすることによって、より具体的な内容を説明できると考えているため、できる限り早い段階での合意を目指しているところですが、引き続き、賛成・反対それぞれの御意見を伺いながら、協議・検討を進めてまいります。
- (2) 仙台医療圏においては、将来にわたって急性期病床が過剰な状況が想定されており、また、医療従事者の確保の観点も踏まえ、新たに急性期病院を設置することは想定できません。
- (3) 医師等医療スタッフの養成・確保策については、様々な施策により解決を目指しているところですが、労働者人口の減少という国レベルの社会構造の変化に対応するためには、医療機関の集約化等の抜本的な解決策が必要と考えているところです。
- (4) 精神医療センターの現地建替えについては、既存の建物の取り壊しと新築工事を並行して行うため、工事中の療養環境の悪化や24時間救急体制への影響、工期の長期化などの懸念から、想定しておりません。
また、名取市内への移転については、10年以上にわたって検討してまいりましたが、地権者の同意や、文化財調査等の行政手続き、土地の造成工事などの点において条件に合う土地が見つからず、建替えの実現に至っておりません。
- (5) 県では、県立精神医療センターの移転について協議を進める中で、患者や家族をはじめ、医療・保健・福祉の関係者からの様々な御意見を踏まえ、県南部の精神科医療提供体制や「にも包括」体制の確保に向けた施策の検討を行うなど、当事者等の意見の反映に努めてまいりました。引き続き議論を重ねてまいります。
- (6) 精神医療センター移転後の、県南部の精神医療体制については、現在、名取市にサテライトを設置する方向で検討を行っており、お示しできる段階になれば、説明したいと考えております。

- (7) 病院再編については、これまで患者等の当事者からの要請活動や、仙台医療圏の医療関係者による地域医療構想調整会議などを通して様々な御意見を頂いているところですので、できる限りの御意見の反映に努めてきたものと認識しております。
- (8) 病院再編について一定の方向性をお示ししながら、議論を行ってまいりたいと考えており、富谷市や名取市においても、時機を図りながら、説明の機会を持ちたいと考えております。
- (9) 県民に対して、将来にわたって持続可能な医療提供体制を確保することは県の責務と考えており、病院再編の効果を最大化できるよう、引き続き様々な御意見を伺いながら、丁寧に議論を進めてまいります。